

令和元年

人口動態統計(概数)について

令和元年人口動態統計（概数）について

福祉保健企画課

【主な数値等】

区 分		H29	H30	R1
出生数	大分県	8,658 (△401)	8,200 (△458)	7,624 (△576)
	全 国	946,146 (△31,096)	918,400 (△27,746)	865,234 (△53,166)
合計特殊出生率	大分県	1.62 (△0.03)	1.59 (△0.03)	1.53 (△0.06)
	全 国	1.43 (△0.01)	1.42 (△0.01)	1.36 (△0.06)
	全国順位	10	11	13
婚姻件数	大分県	5,023 (△129)	4,804 (△219)	4,955 (+151)

() は対前年増減

1 出生数、合計特殊出生率

- (1) 出生数は7,624人で、前年(8,200人)より576人減少し、前年に引き続いて過去最少となった。
- (2) 合計特殊出生率は1.53で、前年(1.59)より0.06ポイント下がった。※全国順位は13位(前年11位)

2 婚姻件数

- (1) 婚姻件数は減少傾向にあったが、令和元年は4,955組と前年(4,804組)より151組増加した。※増加したのは6年ぶり
- (2) 平均初婚年齢は、夫が30.7歳(前年30.4歳)、妻が29.4歳(前年29.0歳)となり、夫は0.3歳、妻は0.4歳上昇した。

3 分析

令和元年の全国の合計特殊出生率は、40都道府県で減少し、増加したのは4県のみであった。(増減なし3県)

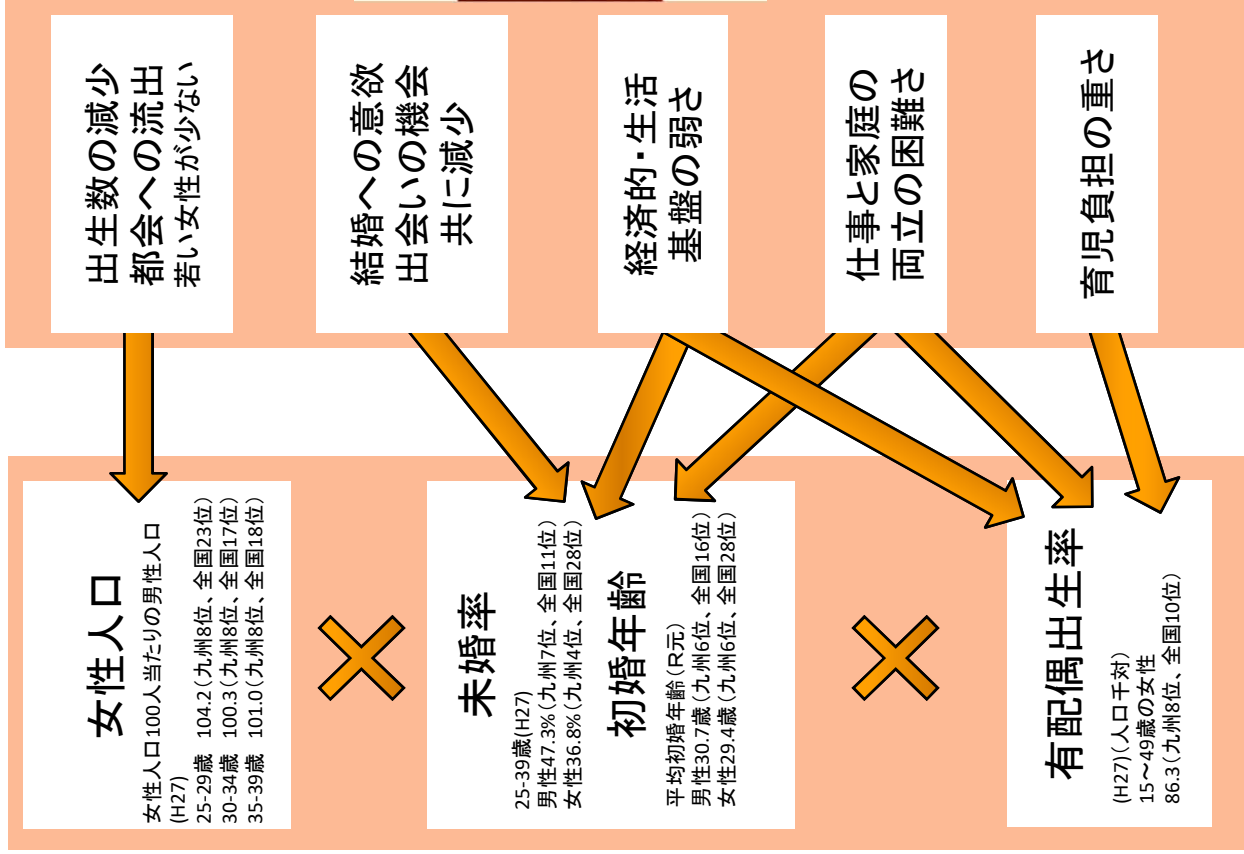
本県においても、年齢階級別女性人口の30～34歳による出生数が対前年△218人、35～39歳で△172人となり、出生数減少の67.7%となっており、合計特殊出生率をそれぞれ0.02ポイントずつ引き下げている。

一方で、婚姻件数の増加を背景に、令和2年1月～4月において、出生数が対前年81人(3.2%)増加しており、明るい兆しが見られる。

合計特殊出生率・出生数の分析

影響する指標

指標が伸びない背景



主な対策

- ① 出会いの機会創出
出会いサポ・イベント-会員サービス向上
- ② 妊娠・出産の支援
妊活アプリによる情報発信
ライブデザイン講座
不妊専門相談センター運営
不妊検査費助成・治療費助成拡充
- ③ 育児支援
ほつとクーポン利用拡大
地域子育て中核人材育成
SNS等を活用した情報発信
- ④ 保育環境の整備
待機児童の解消
マッチングシステムによる保育士確保
保育現場の働き方改革
放課後児童クラブの充実
- ⑤ 経済的負担の軽減
子ども医療費助成
保育料減免(第2子以降)
幼児教育・保育の無償化
放課後児童クラブの負担減免
仕事と子育ての両立支援

部局横断の総合力

- 転出抑制(県内就職)
- 転入促進(Uターン)
- 企業誘致
- 雇用環境の改善(賃金、正規化)
- 働き方改革(子育て等との両立)
- 男女の役割分担意識の改善等
- 住宅環境(子育て世帯リフォーム等) 等

出生率(出生数)の上昇・増加のためには、

- ① 若い世代を中心に女性が増え、(転出抑制・転入促進)
- ② 結婚したい男女が早い時期に結婚し、(未婚率を下げる)
- ③ 夫婦が複数の子を育てられる環境が整っていること(有配偶出生率を上げる)

が重要